

第13回ふるさと山梨郷土学習コンクール表彰式 あいさつ

山梨県教育委員会教育長の斉木邦彦といいます。第13回ふるさと山梨郷土学習コンクール表彰式にあたり、主催者を代表し、ごあいさつ申し上げます。

ごあいさつ申し上げるのは私はいつもおじさんに向かってするのがほとんどですが、今日は違います。皆さんは気づかないかもしれませんが、私は少々興奮気味で気持ちが「わくわく」しています。こんなことを言われても皆さんは「もじもじ」するだけかもしれません。今の私たちは「わくわく」と「もじもじ」で向き合っています。

さて、本コンクールは、郷土の歴史や自然、あるいは郷土の発展に尽くした先人の業績などについて、小学校・中学校の児童生徒の皆さんが自由にテーマを設定し、研究に取り組み、その成果を応募していただくものです。

本日の表彰式には、入賞者のうち、ふるさと山梨大賞、ふるさと山梨優秀賞を受賞された皆さんに出席していただいております。皆さん、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。作品を拝見し、皆さんのたいへんな努力と、「ふるさと山梨」に対する熱い思いをひしひしと感じました。

私たちの「ふるさと山梨」には、四季折々の自然や大切に受け継がれてきた伝統文化、個性豊かな産業など、たくさんの魅力があります。またリニア中央新幹線の開業など、今後の発展に向けた多くの可能性があります。

私は「ふるさと山梨」という言葉、特にその響きが好きです。原稿には大好きとありましたが遠慮してしまいました。好きな理由は山梨には魅力や可能性が多いから、ということだけではありません。「ふるさと山梨」という言葉は自分が生まれ育った山梨の自然と歴史の中で責任ある大人として誇りをもって生きていこうと努力する私を広い大きな心で受けとめ励ましてくれているように感じるからです。

学校で学んでいる真っ最中の皆さんは、身近な地域の自然を知り歴史を知り、それで自分に対する誇りを持ってといわれても難しいと思います。今は「ふるさと山梨」に確かに生きているんだ、ということを実感してください。そしてできれば将来、「ふるさと山梨」という言葉を耳にした時、そこに心地よい響きとともに自分に対する励ましの声を聞きとってほしいと思います。

結びに、服部一秀委員長をはじめ郷土学習推進会議委員の皆様、作品を応募して下さった全ての小中学生の皆さん、学校で子どもたちの指導に当たられている先生方、さらに子どもたちを絶えず励まし続けてくださっている保護者の皆様に心よりお礼を申し上げ、表彰式にあたってのあいさつといたします。

ありがとうございました。